

政務活動費活動報告（研修）

- (1) 研修名：第103回全国図書館大会 東京大会
- (2) 参加者：夢みらい 赤井 康彦
- (3) 日時・場所：平成29年10月13日（8時30分受付）

【1. 研修目的】

本市においては、拠点図書館構想は3館が望ましいとされているが、その中身についての議論はまだまだである。今回、公共図書館の指定管理者制度導入の是非について学び、今後の彦根市の図書館運営体制の考えを自分なりに整理しておくために研修参加をいたしました。

【2. 結果報告】

(1) 内 容

公立図書館の指定管理者制度

基調講演 指定管理者の弊害について
山本昭和（椋山女学園大学文化情報学部教授）

報告 公立図書館の指定管理者制度について-2016
座間直壮（日本図書館協会図書館政策企画委員会）

報告 図書館業務からの撤退 13年の委託請負現場から見てきたもの
渡辺百合子（NPO 法人げんきな図書館理事長）

図書館とまちづくり

基調報告 まちづくりとは何か そのために図書館は何ができるか
嶋田学（瀬戸内市民図書館長）

報告 知恵の交流を通じた人づくりの場としての取り組み
中野実佐雄（塩尻市立図書館長）

(2) 考 察

毎年参加しているが、今回、図書館の指定管理者制度の是非について主に学んできた。全国的には、公立図書館の指定管理者制度導入率は、調査機関によって差があるものの10%から15%くらいであり、未導入の7割ほどは今後の導入を考えていないという。指定管理者制度を導入した自治体では近年、様々な問題が起こっているという。例えば、職員の大量退職など職員配置が不安定な事業者が多いこと。また、一時期報道されてもいたが教育活動に資する蔵書の構築ができないこと。例をあげると今の時代にWindows95の本や10年以上前の旅の本、全く違う地方のラーメン屋の食べ歩き本などを購入している

事実もあった。更には、人気本を貸出1冊だけを置き、隣でその人気本を販売するといった事業者も出てきているとのこと。また、ある都市では、カフェからの眺めをよくするという理由で実際には本でないダミー本3万5千冊を152万円で購入しカフェの売り上げを上げるといったことも実際に起こっており、本来の図書館とはかけ離れてきているとも言える。図書館は、永続する施設であり、指定管理者制度を導入することで長期的視点を持ち難く、行政図書館のノウハウの崩壊、利益を追求する事業者の性質からも図書館の指定管理者制度は、望ましくないと写った。

また、午後からのまちづくりにおける図書館の役割は、様々なやり方があると感じた。図書館は、知の拠点であり、交流の拠点であると再度確認できたが、様々な報告を聞いている中でやはり活発な図書館は、図書館関係者が活発で社会的（交流的）であると感じてしまった。住民組織の町内会やNPOの会合へ参加し、場の提供や情報の提供を積極的におこなっている図書館や地域の課題解決のためにコーディネーターとして活動している図書館が多く存在することがわかった。最後にある報告者が「まだ見ぬ来館者を想像し、活動していく」という言葉を話していたがその言葉に逞しさを感じ我が市もそうであってほしいと思った。